



# おちほ

第99号 令和7年7月1日 発行 社会福祉法人 椎の木会 発行者 太田 正 則  
TEL 0748-77-2299 FAX 0748-77-5588 <https://ochiho.noor.jp/>

## ごくろうさん会



四月が出発や出会いの季節なら三月は終わりと別れの季節といえるでしょうか。そんな3月に落穂寮で行われる毎年恒例の行事があります。それが「ごくろうさん会」です。会社で言えば年度末の「打ち上げ」、学生であれば「卒業パーティー」みたいなものでしょうか。「みなさん、去年の四月から今年三月まで、あれやこれやとごくろーさまでした！まあ、とりあえず今日はパーッとやりましょう！おつかれさーん!!」といった行事です。お酒はできませんが、美味しいものをたくさん食べて、ドライブに出かけたりと、みなさん心身共にリラックスして過ごす日です。写真も笑顔・笑顔・笑顔です。今年度もごくろうさまでした。さて、ご苦労様と言えば、今号で広報が99号となりました！歴代の広報担当の皆様、原稿や写真で協力いただいた利用者さん・職員の皆さん、ありがとうございます。次号、100号記念で何かできればと考えているところです。

「流露」と「創作」  
理事長 太田正則

昭和二十五年に落穂寮が設立され、その当時から取り組まれていた学習日誌には「生活訓練」「リズム」「習作」「遊び」という取り組みが行われていました。

「生活訓練」では、行儀作法や履物の始末、ご飯の食べ方、歯の磨き方、掃除の仕方、そして道の歩き方まで、いざ社会に出ることを想定して課題を設定し、ただ漠然と過ごすのではなくその日に意識して取り組む内容を決めて訓練に取り組まれていました。

「リズム」では、マーチ(コロンビアグラウンドマーチ)、うた(案山子・どんぐり)、スキップ、ダンスなど、担当保育職員が得意な分野で取り組まれていたようです。

「習作」では、これまでお伝えしていた岡山先生が取り組まれていた自由画で、おやつを横において塗りつぶすことに取り組ませることで集中力がつくように指導され、池田文雄さんは一時間もかかって塗りつぶされていくことが記録に残っています。

「遊び」では、絵本を読んだりゴム毬で遊んだり、中には洗濯に行く職員について川にきてメダカ取りをしていることもあったようです。どの取り組みもその内容が一人ひとりの寮生(当時の呼び方)について記録がなされており、教科学習だけでなく、そこに生活習慣の自立に向けた取り組みを、あらゆる角度から行われていたことに、児童施設としての役割を使命として果たされていくことがうかがわれます。

さて、今回このことを皆さんに伝えようと思ったのは、落穂寮が重度知的障がいを持つ児童の療育を全国に先駆け取り組んでいたのではないかとのお言葉を、今年ある大

学の先生に頂いたからです。そこでは岡山先生の取り組みによる「絵」の存在も大きく取り上げられたのですが、同時期に一般社団法人HAPS様からの依頼で、東京国立近代美術館主任研究員の方をゲストキュレーターとして「こどもの絵が七十年残ることについて」(キュレーションを公平に拡張するVol.三)をテーマに今年三月に開催された展覧会に、当時の作品を提供することで協力しました。また、二月には日本文化国際研究センター機関研究員の方からも昔の作品が残されていることに興味を持たれて見学に来られるなど、皆さんのなかで、昭和二十五年に子供が描いた絵がなぜ今も残されているのかという疑問がわき、その意味や価値について、あれこれと考えさせられるものがあるからだと思います。ただ、目の前の子供の発達の可能性を確実に見抜き、その芽を伸ばす方法を考えた、当時教育の一環として取り組まれていた「習作」として実践し、それを記録として残すことで、重度知的障がい児の教育研究に生かそうとされていたことに、ただただ頭の下がらぬ思いです。

最後に、これが芸術か否かという事について考えてしまう貧しい心の私に、昭和三十九年一〇月二五日に「おちほ第三集」として発行された「寮児作品特集」に寄稿していただいた文章の一部を紹介して終わります。

「子供の絵」

木人

子どもの描いたものを「絵」と思

うから腹が立つのなら「絵」と思わねばよい。事実、幼い子供たちにとっては、それは、色あそびであり、線あそび、手の運動、むしゃくしゃの排泄、ひとりごと、話かけ、物語りである。

それを「絵」といおうと「児童画」と名づけようと、それは子どもにとつては、あずかり知らぬところである。こつうい内容を、子どもたちは、幼稚な技術で表現する。それが時に、奔放さ、稚拙味を感じさせる。

それを喜ぶのはよい。そつうい点を楽しむのもよからう。おとなの勝手である。しかし、ある有名な芸術家の絵が、子どもの絵とその表現に似たところがあるからといって、直ちに、これをもって、こどもの絵を「芸術品」として、こどもを「芸術家」扱いするのはあわてすぎる。

特に、子どもをおだてあげ、いやがるのに無理にかかせて、これを宣伝の具に供し、食いものにするなど、これまた、「殺生」な話である。

こどもの絵は自然の「流露」である。芸術家の絵は「創作」である。そこに根本的な差がある。

もちろん、要素としてみれば、双方の作品にそれぞれ「流露」も「創作」もある程度は混ざり合っているであろう。子どもの絵の「創作」は「流露」のついでであり、芸術家の「流露」は「創作」にのつていく。

特に名人といわれるような人の絵には、「創作」努力の極限に於いてあらわれる「流露」がこどもの絵の自然の「流露」と似た似通った感じを与える場合もある。

しかし、両者は同一ではない。子どもの「流露」は発達とともに消滅していき、芸術家のそれは精進とともに深まっていく。

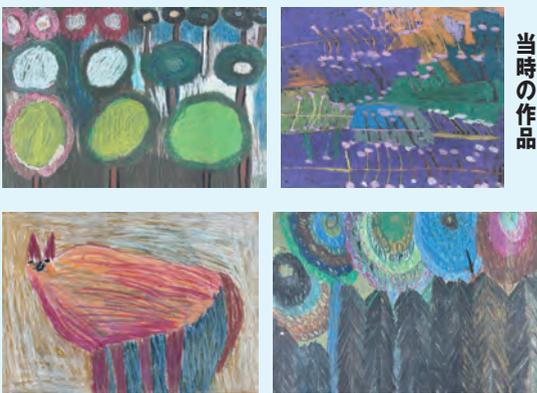
ひつきょう、頑固なおとなの概念によって、ばかにしたり、叱り飛ばしたりすることも、逆に買いかぶってしまつて、排泄物を頭にのせてまわるようなことも、正しい子どもの絵のみかたではない。

親からほろくそにいわれ、一部のおとなからは芸術品ともてはやされる幼児の絵も、年長するともに消えてしまつて、この画紙の上での「運動」「排泄」「遊び」は将来おとなになつてからの豊かな活動力の影響となるのであるから、こせこせしたことをいわず、ぞんぶんにやらせるべきである。

そして、そこから出て来た作品は、芸術品たとかなんだとか世迷い言をいわず、その自由奔放さ、そのかよわいもの悲しさ、その稚拙味を、おとなどもは、いささかの郷愁を混えて、ゆつたりと楽しめばよいのであろう。(三十九、三)

(一表寮々長)

当時の作品



# 「オンラインワンマンニュアルの活かし方」

施設長 三浦奈穂子

日頃から当事業所の運営等に多大なるご理解・ご協力を賜り誠にありがとうございます。

ここ数年は新型コロナウイルスが冬場の感染症領域を牛耳っている状態が続いていたことで、今年にはインフルエンザが大流行するのではとされていました。新型コロナウイルスの蔓延により、人・

時間・思い出・経験など沢山の物を奪われたりと負の残し物が殆どですが、当事業所においては唯一「感染症への対応方法」だけは職員一人一人をはじめ、施設において全体で意識を高めないと乗り越えることができない状態であったことからプラスの物を残してくれた気がします。

悲しい事に一月と二月に多機能棟と男子棟で新型コロナウイルスの蔓延がありました。同じ事業所にはなりません。棟によって利用者さん像が大きく違う為、それぞれの棟で得た経験を次に引継

ぎ、ノウハウを構築して来ました。それによりここ五年のコロナ期を乗り越えてきた職員は蔓延の中でも感染対策を講じて自らが罹患することなく乗り切ってくれました。これは感染対策の重要性を理解し経験を積んでいたからこそだと思っています。

誰しもが罹患すると強く症状が出ている頃と比べ、現在はウイルス自体の弱体化により、個々の抵抗力や免疫力によって発症状態が変わることで外部との接触があった人が無症状等であってもウイルスが持ち込まれてしまう為、常日頃から「先を予測しその時にどう対応するか」を考えておく事がとても重要であるとされています。

ほぼ無症状で終わった方や高熱が数日や一度きりで終わった方もおられますが、中には罹患中は酷い症状は出ていなかったもののその後から体調を崩しやすくなった方と、それぞれ症状が大きく違って

きているのが最近のコロナの状況なのかもしれません。個々の身体的把握と普段の健康状態を保っていることを前提に一人ひとりが罹患した場合による対応や予測をしておくことが大事であると今回感じました。

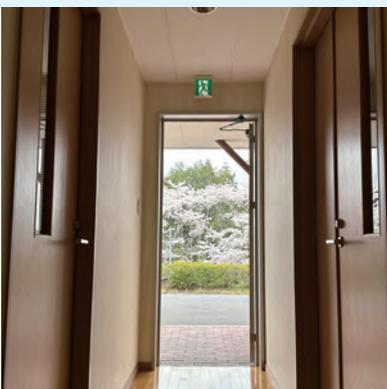
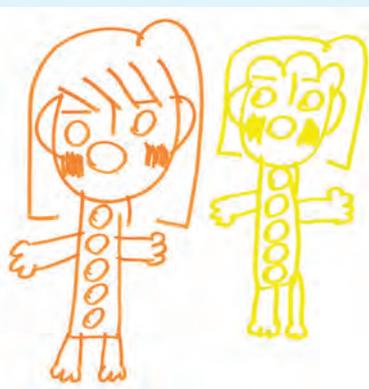
利用者さん一人ひとりのその違いを私たち支援者は障害特性・基礎疾患・体力・年齢・今の免疫力や抵抗力などあらゆることを考慮して支援にあたっていますが、これにはそれなりの知見・経験・判断力が必要となってきます。それに加えて、世間的に予測や具体的に見えない環境や状況判断等で察することが苦手な人が増えて来ているというのを耳にします。

予測することが難しい人が増えるところから支援への影響として予想されるのが「支援のばらつき」です。「この支援のばらつき」を小さくして一定の支援水準を保つことができるのが「マニユアル」になっってくるのだと思います。令和六年度より感染制御リーダー養成研修が滋賀県独自のものとして始まっており当事業所でも一名が受講しました。当事業所・各棟・各利用者における対策をブラッシュアップしたものを全体マニユアル

に落とし込みながら、何らかの感染症が発生すると、命だけでなく

生活リズムが大きく崩れることで利用者さんへの影響が計り知れずQOLが低下することはコロナ時に経験しているからこそ、普段から「先を予測しどう対応するか」事業所内の感染症対策を感染制御リーダー中心に取り組んでいき平穏を保っていきたいと思います。

\*\*\*落穂のひとコマ 奈々さん作\*\*



桜が映える天然の額縁

法人単位事業活動計算書  
(自) 令和6年4月1日 (至) 令和7年3月31日

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)	
サービス活動増減の部	収 益	障害福祉サービス等事業収益	462,686,923	433,213,991	29,472,932
		経常経費寄附金収益	185,510	1,445,000	△ 1,259,490
	サービス活動収益計(1)		462,872,433	434,658,991	28,213,442
	費 用	人件費	336,557,663	314,514,106	22,043,557
		事業費	65,186,107	58,545,037	6,641,070
		事務費	15,070,597	13,772,697	1,297,900
		減価償却費	43,450,202	43,257,833	192,369
		国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 15,084,325	△ 15,059,243	△ 25,082
	サービス活動費用計(2)		445,180,244	415,030,430	30,149,814
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)		17,692,189	19,628,561	△ 1,936,372
増サービスの活動外	収 益	受取利息配当金収益	124,002	4,591	119,411
		その他のサービスの活動外収益	6,196,769	5,734,937	461,832
	サービス活動外収益計(4)		6,320,771	5,739,528	581,243
	費 用	支払利息	132,936	182,022	△ 49,086
		その他のサービスの活動外費用	2,063,580	8,958,787	△ 6,895,207
サービス活動外費用計(5)		2,196,516	9,140,809	△ 6,944,293	
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)		4,124,255	△ 3,401,281	7,525,536	
経常増減差額(7)=(3)+(6)		21,816,444	16,227,280	5,589,164	
特別増減の部	収 益	施設整備等補助金収益	301,000	0	301,000
		施設整備等寄附金収益	610,000	984,500	△ 374,500
		固定資産受贈額	451,000	0	451,000
		固定資産売却益	31,880	0	31,880
	特別収益計(8)		1,393,880	984,500	409,380
	費 用	固定資産売却損・処分損	3	1,796,203	△ 1,796,200
		国庫補助金等特別積立金積立額	301,000	0	301,000
	特別費用計(9)		301,003	1,796,203	△ 1,495,200
特別増減差額(10)=(8)-(9)		1,092,877	△ 811,703	1,904,580	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		22,909,321	15,415,577	7,493,744	
増繰越差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	460,311,118	444,895,841	15,415,277	
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	483,220,439	460,311,418	22,909,021	
	基本金取崩額(14)	0	0	0	
	その他の積立金取崩額(15)	0	0	0	
	その他の積立金積立額(16)	10,610,074	300	10,609,774	
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	472,610,365	460,311,118	12,299,247	

貸借対照表  
令和7年3月31日現在

資 産 の 部			
	当年度末	前年度末	増減
流動資産	323,556,569	294,148,529	29,408,040
現金預金	249,636,776	223,377,841	26,258,935
事業未収金	73,137,145	69,585,798	3,551,347
未収補助金	0	417,000	△ 417,000
立替金	290,954	100,026	190,928
前払費用	301,432	602,864	△ 301,432
仮払金	190,262	65,000	125,262
固定資産	697,193,723	725,659,264	△ 28,465,541
基本財産	466,654,888	493,402,450	△ 26,747,562
建物	466,654,888	493,402,450	△ 26,747,562
その他の固定資産	230,538,835	232,256,814	△ 1,717,979
建物	46,313,427	53,262,402	△ 6,948,975
構築物	24,260,515	27,661,995	△ 3,401,480
車両運搬具	1,247,506	1,102,508	144,998
器具及び備品	8,863,739	10,005,035	△ 1,141,296
有形リース資産	4,186,424	5,509,592	△ 1,323,168
ソフトウェア	60,720	301,840	△ 241,120
無形リース資産	1,752,586	2,265,538	△ 512,952
退職給付引当資産	32,569,938	31,473,998	1,095,940
人件費積立資産	7,000,000	7,000,000	0
修繕積立資産	100,000,300	90,000,300	10,000,000
備品等購入積立資産	3,500,098	3,500,098	0
退職慰労積立預金	173,582	173,508	74
指定寄附建築積立資産	610,000	0	610,000
資産の部合計	1,020,750,292	1,019,807,793	942,499

資金収支計算書  
(自) 令和6年4月1日 (至) 令和7年3月31日

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支	収 入	障害福祉サービス等事業収入	451,186,000	462,686,923	△ 11,500,923
		経常経費寄附金収入	600,000	185,510	414,490
		受取利息配当金収入	9,000	124,002	△ 115,002
		その他の収入	4,800,000	5,865,888	△ 1,065,888
		事業活動収入計(1)	456,595,000	468,862,323	△ 12,267,323
	支 出	人件費支出	310,678,000	334,559,942	△ 23,881,942
		事業費支出	67,935,000	65,186,107	2,748,893
		事務費支出	14,599,000	15,070,597	△ 471,597
		支払利息支出	0	132,936	△ 132,936
		その他の支出	2,000,000	2,063,580	△ 63,580
事業活動支出計(2)		395,212,000	417,013,162	△ 21,801,162	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		61,383,000	51,849,161	9,533,839	
に施設を整る整備	収 入	施設整備等補助金収入	300,000	301,000	△ 1,000
		施設整備等寄附金収入	600,000	610,000	△ 10,000
		固定資産売却収入	31,000	31,880	△ 880
	施設整備等収入計(4)		931,000	942,880	△ 11,880
支 出	設備資金借入金元金償還支出	11,000,000	10,908,000	92,000	
	固定資産取得支出	700,000	2,827,650	△ 2,127,650	
	ファイナンス・リース債務の返済支出	1,840,000	1,836,120	3,880	
施設整備等支出計(5)		13,540,000	15,571,770	△ 2,031,770	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		△ 12,609,000	△ 14,628,890	2,019,890	
にその他の活動	収 入	積立資産取崩収入	0	1,382,960	△ 1,382,960
		その他の活動収入計(7)	0	1,382,960	△ 1,382,960
	支 出	積立資産支出	13,373,000	13,659,874	△ 286,874
		その他の活動支出計(8)	13,373,000	13,659,874	△ 286,874
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		△ 13,373,000	△ 12,276,914	△ 1,096,086	
予備費支出(10)		0	—	0	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		35,401,000	24,943,357	10,457,643	
前期末支払資金残高(12)		286,759,175	286,759,175	0	
当期末支払資金残高(11)+(12)		322,160,175	311,702,532	10,457,643	

第三号第一様式  
(単位：円)

負 債 の 部			
	当年度末	前年度末	増減
流動負債	24,598,157	20,133,474	4,464,683
事業未払金	11,720,195	4,251,068	7,469,127
1年以内返済予定設備資金借入金	10,908,000	10,908,000	0
1年以内返済予定リース債務	1,836,120	1,836,120	0
職員預り金	133,842	3,137,959	△ 3,004,117
仮受金	0	327	△ 327
固定負債	49,482,428	61,130,608	△ 11,648,180
設備資金借入金	12,726,000	23,634,000	△ 10,908,000
リース債務	4,186,490	6,022,610	△ 1,836,120
退職給付引当金	32,569,938	31,473,998	1,095,940
負債の部合計	74,080,585	81,264,082	△ 7,183,497
純 資 産 の 部			
基本金	179,097,106	179,097,106	0
第1号基本金	163,080,910	163,080,910	0
第3号基本金	16,016,196	16,016,196	0
国庫補助金等特別積立金	183,678,256	198,461,581	△ 14,783,325
その他の積立金	111,283,980	100,673,906	10,610,074
人件費積立金	7,000,000	7,000,000	0
修繕積立金	100,000,300	90,000,300	10,000,000
備品等購入積立金	3,500,098	3,500,098	0
退職慰労金積立金	173,582	173,508	74
指定寄附建築積立金	610,000	0	610,000
次期繰越活動増減差額	472,610,365	460,311,118	12,299,247
(うち当期活動増減差額)	22,909,321	15,415,577	7,493,744
純資産の部合計	946,669,707	938,543,711	8,125,996
負債及び純資産の部合計	1,020,750,292	1,019,807,793	942,499

令和6年度決算報告

## クリスマス会

コロナ五類移行から早いものでもう二年が経過しました。男子棟の皆さんは感染対策をしながらも、お楽しみ外出や帰省などが増え、笑顔いっぱいだったのしく生活されています。

各棟分かれてですが、十二月にクリスマス会を行いました。昼食はクリスマス特別メニューで、シヤンメリー・シーザーサラダ・クリームスープ・チキンバーガー・サツマイモのモンブラン風をお腹一杯食べておられます。普段食べることのないメニューに喜ば



クリスマス最高！

プレゼントを受け取ると、早速中身を確認され、プレゼントのおもちやで遊んだり、お菓子を美味しく食べてたりと思いきいに楽しい時間を過ごされていきました。

れ、特にチキンバーガーは、パンと具材を分けて食べておられたり、大きな口で頬張りながらたべられるなど様々な食べ方で味わっておられました。昼食が終わるといよいよお待ちかねのプレゼント渡しです。サンタさんが来るのをクリスマスソングに乗りウキウキしながら待つておられました。サンタさんが登場すると、いすから立ち上がり喜ばれ、普段では見られない姿に職員一同嬉しく感じました。



プレゼント嬉しい！

## 節分

二月三日、節分の日に豆まきをおこないました。昼食後に男子棟の利用者さんにホールへ集まってもらい豆を配ると、鬼に投げるために楽しそうに待つておられる方や、豆をもらうとすぐに口にいれ食べようとされる方など各々楽しそうに過ごされていきました。そこへ鬼に化した職員が登場すると「待つてました！」と勢いよく豆を投げ始めておられます。「豆を投げ終えると、今度は皆で落ちていいる豆の回収です。隅々まで落ちていないかを確認して、全て拾い終えると普段通りの生活に戻られています。短い時間の行事でしたが、楽しそうに過ごされている姿を見ることが出来て職員一同嬉しく思いました。



## 新人職員紹介

初めまして、昨年度の二月より男子棟で働かせて頂くことになりました城 航平です。

私は学生の頃から福祉の世界に興味を持っており、就職活動の際も福祉施設をいくつか見学していく中で落穂寮の事を知りました。体験の段階で職員さんとも施設利用者さんとの関係性がとても素敵で、自分もこんな風になりたいと考え落穂寮で働くことを決意しました。障がい者福祉に関する知識はまだまだ浅く日々勉強だと感じています。

毎日の生活の中で利用者さんとの関係を深めていき、より良い支援に繋がっていきたくです。利用者さんはじめ皆様には、ご迷惑をおかけしていますがご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。



城st  
と  
あきらさん

# 女子棟

## クリスマス会



プレゼントをもらって

利用者さん達が一年の中で一番楽しみにしていると言っても過言ではないクリスマスが今年もやってきました。朝からワクワクして皆さん、笑みがこぼれていました。昼食のクリスマスメニューに「今日はクリスマス！」とはしゃいで声を上げておられました。昼食を食べた後はいよいよサンタさんからのプレゼントが！

名前を呼ばれ、サンタさんからプレゼントを貰い嬉しそうに抱きかかえる方、すぐに袋を開けて喜ぶ方。笑顔にあふれた表情に職員も癒されました。

サンタさんと船津さん



## バースデー外出

冬の季節に誕生日を迎えた利用者さんのバースデー外出を行いました。ケーキを食べに行ったり、いつもよりも遠い駅まで散歩したりなど、利用者さんが楽しめるように計画しました。おしゃれなカフェでケーキを頼んで、いつもとはまた違った特別な時間を過ごされました。今後も利用者さんの誕生日を楽しく過ごせるよう、お祝いをしていきたいと思えます。

オシャレなカフェで



バースデーのお祝い♪



ケーキに夢中♡



## 節分

「鬼は外！福は内！」と二月三日、女子棟内に元気な声が響き渡りました。鬼は棟内に入れないぞ、というように勢いよく利用者さん達は豆を撒いておられました。今年の年女はゆうこさんとさくらさん。袴を穿いて写真を撮ったり、節分で職員が被る鬼の被り物をななさんが被り、他の利用者さん達を「わっ！」と驚かされる場面もありました。今年も利用者さん、職員共に怪我や病気等なく元気に過ごせますように。

鬼は～外～!!



にっこり ゆきこさん(^^)

## 新人職員紹介

初めまして。昨年十一月より女子棟に勤務しています。福山早苗と申します。趣味は御朱印集めと食べ歩き。スポーツはスカイジャンプ等を楽しんでいます。介護福祉を仕事としてスタートする発端は母子福祉の自立支援・就労支援の担当になり、まず、自らが初任者研修取得するところからでした。今までは訪問介護が長く、高齢の方のお宅訪問、訪デイの経験をしてきました。障がいをお持ちの方の介護の経験は浅いのですがご縁を頂き、この落穂寮で働くことが出来嬉しく思っています。利用者さんの毎日の生活が豊かに過ごせるように力を尽くしていきたいと思えます。



福山st  
と  
のりよさん

MerryXmas!

わいわい



サンタさんからの素敵なプレゼント

「今年もクリスマスがやってくるよ」ということで、多機能棟では、ウキウキわくわくの楽しいクリスマスパーティーを開催しました。まずは、お玉を使用してピンポン玉を運ぶリレー！車椅子で運んだり、歩いて運んだり、運搬方法は人それぞれ。利用者さん・職員も含めた全員が楽しめました。好評だったので、そのまま二回戦！こちらも白熱した戦いとなりました。

その後は、みんなでクリスマスソング！オータムコンサートに使ったマラカスも登場！みんな楽しそうにマラカスを振ったり、歌ったりと盛り上がりました。

さて、パーティーの盛り上がる中、いよいよ本命のプレゼント渡します。サンタクロースが登場すると、盛り上がる方や少し緊張してしま



エッホエッホ



球運びりしー

大人しくなってしまう方など、様々な反応がありました。サンタさんの「今年も賢く過ごしておったかのう？」の問いかけに、元気よく返事をされた後は、サンタさんから名前を呼ばれ、プレゼントを受け取ります。どの利用者さんも満面の笑みでした。最後に、サンタさんにお礼を言ってお別れをしました。早速、プレゼント開封して喜ぶ皆さんの姿を、きくとサンタさんは微笑ましく見守っていた事でしょう。

最後はプレゼントにつづく本命のクリスマスケーキの登場です。ケーキの種類は色々で、定番の生クリーム、チョコレート、チーズケーキ、モンブランなど。それぞれ好きなケーキを選んで皆さん美味しそうに召し上がっておられました。ごちそうさまの挨拶でクリスマスパーティーは閉会となりました。皆さんの顔には、笑顔が宿っていました。来年もサンタさんが来てくれますように！



いげだきます!



おいしい~!



豪華なケーキがたくさん!

時間大切にしていきたいです。

レベルや身体に合わせた活動をしてい

すが、たまにこうしてみんなでゆつくりと過ごす時間もあります。職員もこの時間には、利用者さんとゆつくりと過ごします。写真では、みんなでマットに乗って、思い思いに過ごされています。玩具を持ってきたり、職員と遊んだりしながら過ごされる時間

は、息抜きになるだけでなく、利用者さんにとっても落ち着いた時間になります。普段バタバタしているからこそ、こういった

## 日常の小話



みんなでのんびりタイム

こちらは、日中

みんなでゆつくりと過ごされている様子です。日課活動では、それぞれが歩行や入浴やトレーニングを

したりして、自身の

## 節分



「鬼はー外！福はー内！」

にポーロをおやつに食べていただきました。最後に、利用者さん、職員、ご家族様、皆さんの健康、平穏無事を願って、



鬼が 出た！

と逃げたい

きました。

その後は、

皆さんで、

豆の代わり

今年も節分の時期がやってきました。多機能棟では、窓の外に鬼のお面をつけた台車を用意、そこに向かって、皆さんで豆まきを行いました。皆さん順番に、窓の外にいる鬼に向かって、職員と一緒に全力で豆をぶつけておられました。心の鬼を退治する人、病気にかからないように鬼を退治する人、皆さんが健康で元気に過ごせるように祈りながら豆を投げる人など、願い事は人それぞれ。皆さんの全力の想いが届いたので、鬼はさっさと逃げたい

## 新年会

令和七年が始まりましたが……  
しいのきホームでは、年末からインフルエンザが蔓延してしまい、楽しいはずの年末年始を皆さん自室で過ごされることになってしまいました。本来であれば十二月三十一日は食堂にて年越しソバを食べてからの紅白歌合戦、一月一日にはお雑煮やおせち料理を食べべからの初詣、などの年末年始を送るのですが、残念なことに今年は各部屋での食事と静養となってしまうました。幸いな事に今回のインフルエンザで重症化される方はおられませんでしたが皆さん静かに(?)過ごされて何とも寂しい、火の消えたようなお正月となりました。



新年会の仕出し弁当

それでも一月四日の夕食にはインフルエンザになった方も完全に回復して毎年恒例の「しいのきホーム新年会」を行うことができました。ノン



いただきます。



今年もよろしく!!

アルチューハイで「よく効くなあ。」とほろよい気分の方、仕出し弁当のおかずをどれから食べようか迷う方、見慣れないメニューに「これ何?」と確認しながら味わう方、「美味しい!美味しい!」と終始笑顔の方。皆さんそれぞれ楽しく新年らしい時間を過ごすことができました。

現在、確実に高齢化の波が押し寄せている「しいのきホーム」ですが、今年病気をせず、一年をみんな楽しく過ごしたいと思っています。

## 多機能棟 新人職員紹介

今年の二月中旬より多機能棟で働かせていただくことになりました。二宮 愛です。

学生の頃、ハンドメイドのある方が利用されている施設に伺い、見学させていただく機会がありました。その時にレクリエーションや色々な活動を一緒にさせていただき、私自身とても楽しく、利用者様が生き生きと過ごされているのを見て、いつかそのサポートができるお仕事がしたいと考えていました。

福祉のお仕事自体未経験で初めての事ばかりですが、多機能棟の利用者様の笑顔や温かさに支えられながら、日々学ばせていただいております。まだまだ力不足ですが、利用者様が快適に過ごせるようサポートしていきたいと思っております。宜しくお願いします。



二宮st  
たかこさん

## 通所クリスマス会

ささやかですが、クリスマス会を通所メンバーで行いました。通所生活介護では毎週金曜日の午後はドラッグで、皆さんが出かけている間に食堂を飾りつけてケーキとプレゼントを用意、いつものようにおやつを食べるつもりで食堂へやって来る利用者さんを待ち受けます。食堂に入ると表情は満面の笑みとなりました。みなさん、メリークリスマス!

今年度も歳末助け合い基金の助成でクリスマス会を行うことができました。この場を借りて御礼させていただきます。ありがとうございました。



# Business(事業)Continuity(継続)Plan(計画)とは？



落穂寮では、BCPに基づき、定期的に訓練を実施しています。BCPとは、事業継続計画のことです。災害や感染症のまん延など、予測不能な事態が発生した際にも、利用者の方々への支援を継続するための計画をあらかじめ策定することです。

今回は、炊事場の修繕工事で、食事が提供できない期間があったため、その時に合わせて備蓄されている非常食を利用者さんに提供する訓練を行いました。普段口にする機会の少ないアルファ米や保存パン、栄養補助食品などを実際に試食することで、調理の手軽さや利用者さんの食べやすさなどを確認しました。実際の食事場面で職員が観察しているところ、アルファ米は比較的にスムーズに食べられる方が多い一方、保存パンは水分が必要ない



様子が見られるなど、観察の結果から、非常時の食事提供においては、個々の利用者さんの状態に合わせた配慮が不可欠であることが改めて認識されました。特に、利用者さん一人ひとりの状態に合わせた提供方法の確認などは、今回の訓練の重要な点で、食事の介助が必要な方や、嚥下機能に配慮が必要な方に対し、備蓄食をどのように工夫し、安全に配膳・介助できるか、具体的な手順や注意点を確認しました。

今回の訓練を通して、備蓄食の重要性と改善点を改めて認識し、災害発生時における人員不足時の対応や、より使いやすい食器の検討など、いくつかの課題も見え、これらの経験を活かし、今後も定期的な訓練を実施し、備蓄食の内容や提供方法の見直し・改善を図っていきます。職員一同、防災意識の向上と備えの強化に、より一層努めていきます。

**ご協力  
ありがとうございます**

〈物品の寄付〉

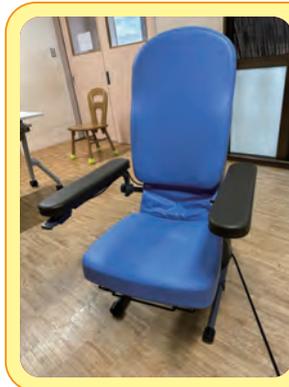
独立宣言エコライト  
公益財団法人  
河本文教福祉振興会

(敬称略)

社会福祉法人権の木会及び落穂寮の運営にご協力いただいた方に、この場を借りて御礼申し上げます。

今後も変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願い致します。ありがとうございます。

令和七年五月末現在



木言

上に伸びる  
下にも伸びる  
見えない地中で  
がっちり掴む  
花も実もない？  
いいえ、つながっているよ

**泉**

世間では空前の物価高です。白菜やキャベツとあった、これまで「お金がないからこれでかさ増し！」の代表格だった野菜も高級品に。去年の秋は一度もサンマを食べることなく終わってしまいました。物価の上昇は経済成長を伴うものであれば健全なものと言えますが、このところあまり健全なものとは言えないような気がします。特にお米に関しては、売り惜しみ、買い占め、転売などの噂を耳にします。企業や個人レベルの思惑が(といっても金儲け一択ですが)交錯してこの事態となっているのでしよう。

このような話をすると年齢がバレますが、昔はお酒やお米の販売の免許要件が厳しく、特定のお店でしか購入できませんでした。米は米屋、酒は酒屋の時代で、購入場所は限られて価格競争もそれほどなく、現在に比べると色々と不便でした。しかし、今回のように米の供給が不安定になった場合、もっと上手く流通をコントロールできた可能性がります。また、これだけ飲酒運転が問題になっているのに、二十四時間どこでもお酒が買えるのは考えてみればおかしなことかもしれません。(海外から来られた方が日本でびっくりすることの一つらしいです)これらの規制がゆるやかになり、便利になった面があるのも確かです。自由と規制のバランス、このことを次号でまた考えたいと思います。